



データの保護

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere

NetApp
December 09, 2025

目次

データの保護	1
データ保護のワークフロー	1
VMとデータストアのバックアップの表示	2
VMとデータストアのバックアップ ポリシーの作成	3
リソース グループの作成	8
互換性チェックのエラーの管理	15
プリスクリプトとポストスクリプト	16
サポートされるスクリプト タイプ	16
スクリプト パスの場所	16
スクリプトを指定する場所	16
スクリプトが実行されるタイミング	16
スクリプトに渡される環境変数	17
スクリプトのタイムアウト	17
Perlスクリプトの例1	18
Perlスクリプトの例2	18
シェル スクリプトの例	18
リソース グループへの単一のVMまたはデータストアの追加	19
リソース グループへの複数のVMとデータストアの追加	19
名前が変更されたストレージのバックアップのリストア	20
オンデマンドでのリソース グループのバックアップ	21
SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのMySQLデータベースのバックアップ	22
リソース グループの管理	23
リソース グループに対する処理の一時停止と再開	23
リソース グループの変更	23
リソース グループの削除	24
ポリシーの管理	24
ポリシーの適用解除	24
ポリシーの変更	25
ポリシーの削除	25
バックアップの管理	26
バックアップの名前の変更	26
バックアップの削除	26

データの保護

データ保護のワークフロー

SnapCenter vSphere Clientを使用して、VM、VMDK、およびデータストアのデータ保護処理を実行します。すべてのバックアップ処理はリソース グループに対して実行されます。リソース グループには1つ以上のVMとデータストアを任意の組み合わせで含めることができます。バックアップは、オンデマンドで実行するか、または定義した保護スケジュールに従って実行できます。

データストアをバックアップすると、そのデータストア内のすべてのVMがバックアップされます。

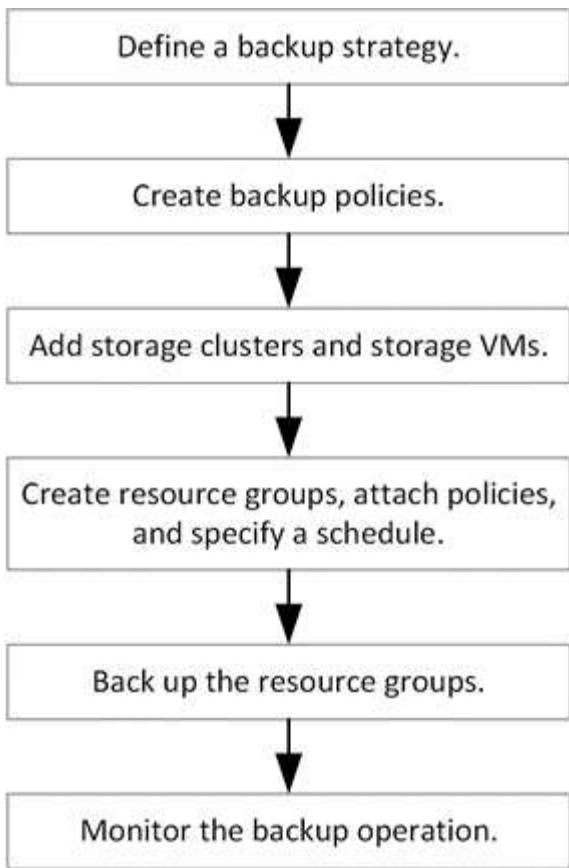
同じリソース グループに対してバックアップ処理とリストア処理を同時に実行することはできません。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere がサポートする内容とサポートしない内容に関する情報を確認する必要があります。["導入の計画と要件"](#)

MetroCluster構成：

- フェイルオーバー後に、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで保護関係を検出できないことがあります。参照 ["KB 記事: MetroCluster フェイルオーバー後に SnapMirror または SnapVault 関係を検出できない" 詳細](#)についてはこちらをご覧ください。
- バックアップがエラーで失敗した場合 `Unable to discover resources on SCV: <xxx>...` スイッチオーバー/スイッチバック後の NFS および VMFS VM の場合は、メンテナンス コンソールからSnapCenter VMware サービスを再起動します。

次のワークフロー図は、バックアップ処理の実行順序を示しています。



VMとデータストアのバックアップの表示

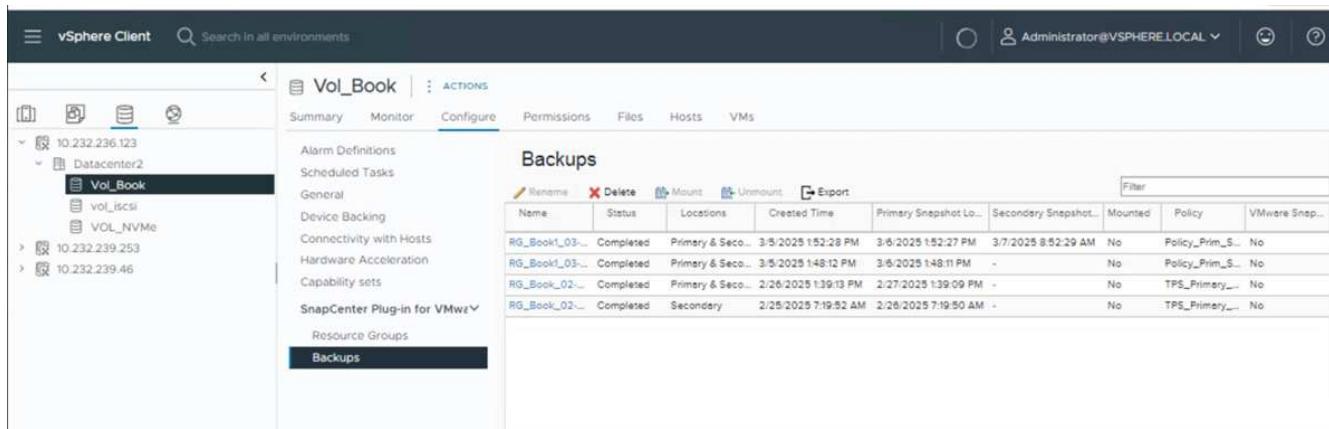
VM またはデータストアのバックアップまたは復元の準備をするときに、そのリソースで使用可能なすべてのバックアップを確認し、それらのバックアップの詳細を表示することが必要になる場合があります。

タスク概要

10K ファイル フォルダーなどの大きなファイル フォルダーを参照する場合、初めての場合は 1 分以上かかることがあります。以降の参照セッションの所要時間は短くなります。

手順

1. vCenter Serverにログインします。
2. インベントリ ページに移動し、データストアまたは VM を選択します。
3. 右側のペインで、構成 > * SnapCenter Plug-in for VMware vSphere* > バックアップを選択します。



ポリシー作成段階で「セカンダリ スナップショットロックを有効にする」オプションが選択されていない場合は、「プライマリ スナップショットロックを有効にする」オプションに設定された値がデフォルトで使用されます。バックアップリストの「セカンダリ スナップショットロックの有効期限」フィールドのハイフンは、プライマリ ロック期間とセカンダリ ロック期間が同じであることを示します。

- 表示するバックアップを選択します。

VMとデータストアのバックアップ ポリシーの作成

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを使用してVMとデータストアをバックアップするには、事前にバックアップ ポリシーを作成する必要があります。

開始する前に

- 前提条件を確認しておく必要があります。
- セカンダリ ストレージの関係を設定しておく必要があります。
 - スナップショットをミラーまたはボルト セカンダリ ストレージに複製する場合は、関係を構成し、SnapCenter管理者がソース ボリュームと宛先ボリュームの両方に対してストレージ VM を割り当てておく必要があります。
 - NFS または VMFS データストア上の Version-FlexibleMirror 関係のスナップショットをセカンダリ ストレージに正常に転送するには、SnapMirrorポリシー タイプが非同期ミラーであり、「all_source_snapshots」オプションがオンになっていることを確認します。
 - セカンダリ ストレージ(ミラー ボルト)上のスナップショットの数が最大制限に達すると、バックアップ操作でバックアップを登録して保持を適用するアクティビティが次のエラーで失敗します。
This snapshot is currently used as a reference snapshot by one or more SnapMirror relationships. Deleting the snapshot can cause future SnapMirror operations to fail.

この問題を修正するには、スナップショットの最大制限に達しないように、セカンダリ ストレージのSnapMirror保持ポリシーを構成します。

管理者がユーザーにリソースを割り当てる方法については、以下を参照してください。 "ロールベースのアクセス制御の使用に関するSnapCenterの情報"。

- VMと整合性のあるバックアップが必要な場合は、VMware Toolsをインストールして実行しておく必要があります。VMware Toolsは、VMを休止するために必要となります。VM整合性バックアップは、vVol VMではサポートされていません。

- SnapMirrorアクティブ同期を使用すると、サイト全体の障害が発生した場合でもビジネス サービスの運用を継続でき、アプリケーションがセカンダリ コピーを使用して透過的にフェイルオーバーできるようになります。



SnapMirrorアクティブ同期は、VMFSデータストアに対してのみサポートされます。

SnapMirrorアクティブ同期環境のVMFSデータストアを保護するには、SnapCenter管理者が次の作業を行う必要があります。

- 技術レポートの説明に従ってクラスターとメディエーターを構成します。 "["SnapMirrorアクティブ同期用のONTAP Mediatorとクラスタの設定"](#)"。
- VMFS データストアに関連付けられたボリュームをコンシステム グループに追加し、2つ のONTAPストレージ システム間に *AutomatedFailOver* または *AutomatedFailOverDuplex* 保護ポリシーを使用してデータ保護関係を作成します。 *AutomatedFailOverDuplex* ポリシーは、ONTAP 9.15.1 リリース以降でサポートされます。



ファンアウト構成では、3次サイトでは整合性グループはサポートされません。

タスク概要

ウィザードの各ページのフィールドのほとんどはわかりやすいもので、説明を必要としません。以下の手順では、説明が必要な一部のフィールドを取り上げます。

手順

1. SCV プラグインの左側のナビゲータ ペインで、ポリシー を選択します。
2. ポリシー ページで、作成 を選択してウィザードを開始します。
3. 新しいバックアップ ポリシー ページで、ポリシー名と説明を入力します。
 - リンク モード

リンク モードでは、vCenterごとに個別の仮想アプライアンスがあります。そのため、複数のvCenterで重複する名前を使用できます。ただし、ポリシーはリソース グループと同じvCenterで作成する必要があります。

- サポートされない文字

VM、データストア、クラスター、ポリシー、バックアップ、またはリソース グループの名前には、次の特殊文字を使用しないでください: % & * \$ # @ ! \ : * ? " < > - | ; ' 、およびスペース。

アンダースコア（_）は使用できます。

4. 頻度を指定します。

ポリシーではバックアップの頻度のみを指定します。バックアップの具体的なスケジュールは、リソース グループで定義します。したがって、複数のリソース グループで同じポリシーとバックアップ頻度を使用している場合でも、別々のバックアップ スケジュールを設定できます。

5. スナップショットのロックを有効にするには、「ロック期間」チェックボックスを選択します。プライマリおよびセカンダリ スナップショットのロック期間を日数/月数/年数として選択できます。



ONTAP SnapMirrorポリシーで設定された保持値に関係なく、指定されたセカンダリースナップショットのロック期間が経過するまではセカンダリースナップショットコピーは削除されません。

6. 保持設定を指定します。



SnapVaultレプリケーションを有効にする場合は、バックアップの保持数を2以上に設定する必要があります。バックアップの保持数を1に設定すると、保持処理が失敗する場合があります。これは、新しいスナップショットがターゲットに複製されるまで、最初のスナップショットがSnapVault関係の参照スナップショットとなるためです。



最大保持値は 1018 バックアップです。保持数を、使用しているONTAPバージョンがサポートする値よりも大きい値に設定すると、バックアップが失敗します。これは、スペニングデータストアにも当てはまります。

7. レプリケーション フィールドで、次の表に示すように、セカンダリーストレージへのレプリケーションの種類を指定します。

フィールド	操作
Update SnapMirror after backup	<p>プライマリ バックアップボリュームとのSnapMirror関係がある別のボリュームにバックアップセットのミラーコピーを作成する場合は、このオプションを選択します。ボリュームにミラーボルト関係が設定されている場合、バックアップをミラーボルトの宛先にコピーするには、[バックアップ後にSnapVaultを更新] オプションのみを選択する必要があります。</p> <p> このオプションは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere 4.5以降のFlexGroupボリュームのデータストアでサポートされます。</p> <p> SnapMirrorアクティブシンク展開でVMFSデータストアを保護するには、「始める前に」セクションに記載されている前提条件を完了し、バックアップ後にSnapMirrorを更新を有効にする必要があります。</p>

フィールド	操作
Update SnapVault after backup	<p>プライマリ バックアップ ボリュームとのSnapVault 関係がある別のボリュームでディスクツーディスク バックアップ レプリケーションを実行する場合は、このオプションを選択します。</p> <p> ボリュームにmirror-vault関係が設定されている場合、mirror-vaultデステイネーションにバックアップをコピーするには、このオプションのみを選択する必要があります。</p> <p> このオプションは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere 4.5以降のFlexGroupボリュームのデータストアでサポートされます。</p>
Snapshot label	<p>このポリシーで作成されたSnapVaultおよびSnapMirrorスナップショットに追加するオプションのカスタム ラベルを入力します。スナップショット ラベルは、このポリシーで作成されたスナップショットをセカンダリ ストレージ システム上の他のスナップショットと区別するのに役立ちます。</p> <p> スナップショット ラベルには最大31 文字まで使用できます。</p>

8. オプション: 詳細 フィールドで、必要なフィールドを選択します。[Advanced] フィールドの詳細を次の表に示します。

フィールド	操作
VM consistency	<p>バックアップ ジョブが実行される際に毎回VMを休止してVMwareスナップショットを作成する場合、オンにします。</p> <p>このオプションは、vVolではサポートされていません。vVol VMの場合、クラッシュ整合性のあるバックアップのみが実行されます。</p> <p> VM整合性バックアップを実行するには、VMでVMware Toolsが実行されている必要があります。VMware Toolsが実行されていない場合は、代わりにクラッシュ整合性バックアップが実行されます。</p> <p> [VM consistency]ボックスをオンになると、バックアップ処理に必要な時間とストレージ スペースが増えることがあります。オンにした場合、まずVMが休止され、VMwareによってVM整合性スナップショットが実行されます。次に、SnapCenterによってバックアップ処理が実行され、その後VMの処理が再開されます。VM ゲスト メモリは VM 整合性スナップショットには含まれません。</p>
独立型ディスクのデータストアを含める	一時的なデータが格納された独立型ディスクのデータストアをバックアップに含める場合は、このボックスをオンにします。
Scripts	<p>バックアップ操作の前または後にSnapCenter Plug-in for VMware vSphere で実行するプレスクリプトまたはポストスクリプトの完全修飾パスを入力します。たとえば、SNMPトラップの更新、アラートの自動化、ログの送信などをスクリプトで実行できます。スクリプト パスは、スクリプトの実行時に検証されます。</p> <p> プリスクリプトとポストスクリプトは、仮想アプライアンスVM上に配置する必要があります。複数のスクリプトを入力するには、各スクリプト パスの後に Enter を押して、各スクリプトを別々の行にリストします。セミコロン「;」は使用できません。</p>

9. *追加*を選択します。

[Policies]ページで、ポリシーが作成されたことを確認し、ポリシーを選択してその設定を確認できます。

リソース グループの作成

リソース グループは、保護するVM、データストア、vSphereタグ、vSphere VMフォルダのコンテナです。

リソース グループには、次のリソースを含めることができます。

- 従来のVMとデータストア

従来のVM、従来のSANデータストア、従来のNASデータストアの任意の組み合わせ。従来のVMをvVol VMと組み合わせることはできません。

- FlexGroupデータストア

単一のFlexGroupデータストア。スパンニングFlexGroupデータストアはサポートされていません。FlexGroupデータストアを従来のVMまたはデータストアと組み合わせることはできません。

- FlexVolデータストア

1つ以上のFlexVolデータストア。スパンニングデータストアがサポートされています。

- vVol VM

1つ以上のvVol VM。vVol VMを従来のVMまたはデータストアと組み合わせることはできません。

- vSphereタグ

指定したvSphereタグが設定されたすべてのVMとデータストア（vVolデータストアを除く）。

- フォルダ内のvVol VM

指定した1つのvVolフォルダ内のすべてのvVol。フォルダ内にvVol VMと従来のVMが混在している場合、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereではvVol VMがバックアップされ、従来のVMはスキップされます。

- ASA r2 上の VM とデータストア

ASA r2 VM およびデータストアを他の VM およびデータストアと組み合わせることはできません。

すべてのリソース グループ：



VMware vSphereクラスタ サービス (vCLS) を使用している場合は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのリソース グループに、vCLSで管理されているVMを含めないでください。

詳細については、"vCenter を 7.0.x にアップデートした後、SCV が vCLS VM をバックアップできない"



SnapCenter Plug-in for VMware vSphere 4.5以降では、最大128 TBの大規模なLUNおよびファイルのデータストアと、最大300TBのボリュームがサポートされます。大規模なLUNを保護する場合は、レイテンシを回避するために、シック プロビジョニングされたLUNのみを使用します。



アクセスできない状態のVMは追加しないでください。アクセスできないVMを含むリソース グループを作成することは可能ですが、そのリソース グループのバックアップは失敗します。

開始する前に

vVol VMを含むリソース グループを作成する前に、ONTAP tools for VMwareを導入する必要があります。

詳細については、ONTAP tools for VMware vSphereのドキュメントを参照してください。さらに、以下を参照してください ["NetApp Interoperability Matrix Tool"](#)ONTAPツールでサポートされているバージョンに関する最新情報。

タスク概要

リソース グループに対して、リソースの追加または削除をいつでも実行できます。

- 単一リソースのバックアップ

単一のリソース（単一のVMなど）をバックアップするには、その単一のリソースを含むリソース グループを作成する必要があります。

- 複数リソースのバックアップ

複数のリソースをバックアップするには、複数のリソースを含むリソース グループを作成する必要があります。

- MetroCluster環境のFlexGroupボリュームを含むリソース グループ

ONTAP 9.8またはONTAP 9.9を実行している場合は、スイッチオーバーまたはスイッチバックのあとに、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereサービスを再起動し、SnapMirror関係を再同期してから、MetroCluster環境でリソース グループをバックアップする必要があります。

ONTAP 9.8では、スイッチバック後にバックアップがハンギングします。ONTAP 9.9では、この問題が修正されています。

- スナップショットの最適化

スナップショットを最適化するには、同じボリュームに関連付けられている VM とデータストアを 1 つのリソース グループにグループ化する必要があります。

- バックアップ ポリシー

リソース グループはバックアップ ポリシーがなくても作成できますが、データ保護処理は少なくとも1つのポリシーがリソース グループに適用されている場合にのみ実行できます。リソース グループの作成プロセスで、既存のポリシーを使用するか新しいポリシーを作成するかを選択できます。



スナップショットロック期間を含むバックアップ ポリシーを選択する場合は、ONTAP 9.12.1 以降のバージョンを選択する必要があります。

- 互換性チェック

リソース グループの作成時に、SnapCenterによって互換性チェックが実行されます。

[互換性チェックのエラーの管理]

- リソース グループの二次保護を作成する

セカンダリ保護は、リソース グループに追加されたリソースのレプリケーション関係の作成を担当します。プライマリから指定されたポリシーを使用して、優先クラスタと SVM にコンセンスンシーグループベースのSnapMirror関係を作成する必要があります。セカンダリ保護は、ASA r2 システム ベースのデータストアと仮想マシンでのみサポートされます。クラスタ ピアリングと SVM ピアリングを事前に構成する必要があります。セカンダリ保護では、非同期SnapMirrorポリシーのみが許可されます。セカンダリ保護を作成するときは、整合性グループのサフィックスを指定する必要があります。

セカンダリ保護は、リソース グループに追加されたリソースのレプリケーション関係の作成を担当します。

手順

- SCV プラグインの左側のナビゲータ ペインで、リソース グループを選択し、作成を選択してウィザードを開きます。

リソース グループを作成するには、この方法が最も簡単です。ただし、次のいずれかを実行して、1つのリソースを含むリソース グループを作成することもできます。

- 1 つの VM のリソース グループを作成するには、ショートカット ページで [ホストとクラスター] を選択し、VM を右クリックして [SnapCenter Plug-in for VMware vSphere] > [リソース グループの作成] を選択します。
- 1 つのデータストアのリソース グループを作成するには、ショートカット ページで [ホストとクラスター] を選択し、データストアを右クリックして [SnapCenter Plug-in for VMware vSphere] > [リソース グループの作成] を選択します。
 - ウィザードの*一般情報と通知*ページで、次の操作を行います。

フィールド	操作
vCenter Server	vCenterサーバを選択します。
Name	リソース グループの名前を入力します。VM、データストア、ポリシー、バックアップ、またはリソース グループの名前には、次の特殊文字を使用しないでください: % & * \$ # @ ! \ / : * ? " < > - [縦棒] ; ' およびスペース。アンダースコア (_) は使用できます。特殊文字を含むVMまたはデータストアの名前は切り捨てられるため、特定のバックアップを検索することが難しくなります。リンク モードでは、vCenterごとに個別のSnapCenter Plug-in for VMware vSphereリポジトリがあります。そのため、複数のvCenterで重複する名前を使用できます。
説明	リソース グループの説明を入力します。

フィールド	操作
通知	<p>このリソース グループの操作に関する通知をいつ受信するかを選択します: エラーまたは警告: エラーと警告のみ通知を送信します エラー: エラーのみ通知を送信します 常に: すべてのメッセージ タイプについて通知を送信します なし: 通知を送信しません</p>
Email send from	通知の送信元とするEメール アドレスを入力します。
Email send to	通知の受信者のEメール アドレスを入力します。受信者が複数いる場合は、Eメール アドレスをカンマで区切ります。
Email subject	通知Eメールに使用する件名を入力します。
最新のスナップショット名	<p>最新のスナップショットにサフィックス「_recent」を追加する場合は、このボックスをオンにします。 「_recent」サフィックスは日付とタイムスタンプを置き換えます。</p> <p> あ、「_recent」リソース グループに添付されているポリシーごとにバックアップが作成されます。したがって、複数のポリシーを持つリソースグループには複数の「_recent」バックアップ。手動で名前を変更しないでください、「_recent」バックアップ。</p> <p> ASA r2 ストレージ システムはスナップショットの名前変更をサポートしていないため、SCV の名前変更バックアップおよび「_recent」スナップショット命名機能はサポートされていません。</p>

フィールド	操作
カスタムスナップショット形式	<p>スナップショット名にカスタム形式を使用する場合は、このボックスをオンにして、名前の形式を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトでは、この機能は無効になっています。 デフォルトのスナップショット名は次の形式を使用します <ResourceGroup>_<Date-TimeStamp>`ただし、変数 \$ResourceGroup、\$Policy、\$HostName、\$ScheduleType、および \$CustomText を使用してカスタム形式を指定できます。カスタム名フィールドのドロップダウン リストを使用して、使用する変数とその使用順序を選択します。 \$CustomTextを選択した場合、名前の形式は`<CustomName>_<Date-TimeStamp>。表示された追加ボックスにカスタム テキストを入力します。 [注意]: 「_recent」サフィックスも選択する場合は、カスタム スナップショット名がデータストア内で一意であることを確認する必要があります。そのため、名前に \$ResourceGroup および \$Policy 変数を追加する必要があります。 特殊文字 名前内の特殊文字については、「名前」フィールドと同じガイドラインに従ってください。

b. リソース ページで、次の操作を行います。

フィールド	操作
Scope	保護するリソースの種類を選択します: * データストア (指定された 1 つ以上のデータストア内のすべての従来の VM)。vVol データストアは選択できません。 * 仮想マシン (個別の従来の VM または vVol VM。フィールドでは、VM または vVol VM を含むデータストアに移動する必要があります)。FlexGroup データストア内の個々の VM は選択できません。 * タグ タグベースのデータストア保護は、NFS および VMFS データストア、仮想マシン、および vVol 仮想マシンに対してのみサポートされます。 * VM フォルダ (指定されたフォルダ内のすべての vVol VM。ポップアップ フィールドで、フォルダが配置されているデータセンターに移動する必要があります)
Datacenter	追加する VM、データストア、またはフォルダに移動します。リソース グループ内の VM およびデータストアの名前は一意である必要があります。

フィールド	操作
Available entities	保護するリソースを選択し、>を選択して、選択内容を [選択したエンティティ] リストに移動します。

*次へ*を選択すると、システムはまず、選択したリソースが配置されているストレージをSnapCenterが管理し、互換性があるかどうかを確認します。

メッセージが `Selected <resource-name> is not SnapCenter compatible` が表示される場合、選択したリソースはSnapCenterと互換性がありません。

1つ以上のデータストアをバックアップからグローバルに除外するには、データストア名を指定する必要があります。`global.ds.exclusion.pattern` の財産 `scbr.override` 設定ファイル。。 ["上書き可能なプロパティ"](#)。

a. スパンニング ディスク ページで、複数のデータストアにまたがる複数の VMDK を持つ VM のオプションを選択します。

- Always exclude all spanning datastores (データストアの場合のデフォルト)
- Always include all spanning datastores (VMの場合のデフォルト)
- Manually select the spanning datastores to be included

FlexGroupデータストアとvVolデータストアでは、スパンニングVMはサポートされていません。

b. ポリシー ページで、次の表に示すように、1つ以上のバックアップ ポリシーを選択または作成します。

使用するには...	操作
既存のポリシー	リストから1つ以上のポリシーを選択します。セカンダリ保護は、SnapMirrorとSnapVaultの両方の更新を選択した既存および新しいポリシーに適用できます。
新しいポリシー	i. *作成*を選択します。 ii. [New Backup Policy] ウィザードを完了して、[Create Resource Group] ウィザードに戻ります。

リンク モードでは、リンクされたすべてのvCenterにあるポリシーがリストに含まれます。リソース グループと同じvCenterにあるポリシーを選択する必要があります。

c. 二次保護 ページには、選択したリソースのリストとその保護ステータスが表示されます。保護されていないリソースを保護するには、ドロップダウンからレプリケーション ポリシー タイプ、整合性グループのサフィックス、宛先クラスタ、および宛先 SVM を選択します。リソース グループを作成すると、二次保護用の別のジョブが作成され、ジョブ モニター ウィンドウで確認できます。

フィールド	説明
レプリケーションポリシー名	SnapMirrorポリシーの名前。 *非同期*および*ミラーとボールト*セカンダリ ポリシーのみがサポートされます。
一貫性グループのサフィックス	プライマリ整合性グループに追加して宛先整合性グループ名を形成するために使用される宛先設定。たとえば、プライマリ コン sistenシー グループの名前が sccg_2024-11-28_120918 で、サフィックスとして _dest を入力すると、セカンダリ コン sistenシー グループは sccg_2024-11-28_120918_dest として作成されます。サフィックスは、保護されていない整合性グループにのみ適用されます。
デスティネーション クラスタ	保護されていないすべてのストレージ ユニットの場合、SCV はドロップダウンにピア クラスターの名前を表示します。SCV に追加されたストレージが SVM スコープ内にある場合、ONTAP の制限により、名前の代わりにクラスタ ID が表示されます。
デスティネーション SVM	保護されていないすべてのストレージ ユニットの場合、SCV はピア SVM の名前を表示します。整合性グループの一部であるストレージ ユニットの 1 つを選択すると、クラスタと SVM が自動的に選択されます。同じ一貫性グループ内の他のすべてのストレージ ユニットにも同じことが適用されます。
二次保護資源	リソース ページに追加されたリソースのすべての保護されたストレージ ユニットについて、クラスタ、SVM、レプリケーション タイプなどのセカンダリ関係の詳細が表示されます。

Create Resource Group

X

1. General info & notification

2. Resource

3. Spanning disks

4. Policies

5. Secondary Protection

6. Schedules

7. Summary

Secondary unprotected resources i

Replication Policy Name

Asynchronous

Consistency Group suffix

_dest

Source Location	Resources	Destination Cluster i	Destination SVM
svm0:testds	smbc_spanned_vm	sti42-vsim-ucs512g_clus...	svm1

Secondary protected resources

Source Location	Resources	Destination SVM	Replication Type
svm0 : smbc_manual_2	smbc_spanned_vm	sti42-vsim-ucs512g_clus...	async
svm0 : smbc_manual_1	smbc_spanned_vm	sti42-vsim-ucs512g_clus...	async

1. スケジュール ページで、選択したポリシーごとにバックアップ スケジュールを構成します。

開始時刻のフィールドに、ゼロ以外の日時を入力します。日付は次の形式でなければなりません
day/month/year。

[Every]フィールドで日数を選択すると、その月の1日目にバックアップが実行され、それ以降は指定した間隔で実行されます。たとえば、*2日ごと*オプションを選択した場合、開始日が偶数か奇数かに関係なく、月を通して1日目、3日目、5日目、7日目などにバックアップが実行されます。

すべてのフィールドに情報を入力する必要があります。SnapCenter Plug-in for VMware vSphereでは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが導入されているタイムゾーンでスケジュールが作成されます。タイムゾーンは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのGUIを使用して変更できます。

"[バックアップのタイムゾーンの変更](#)"。

- 概要を確認して、[完了]を選択します。SCV 6.1 以降では、ASA r2 システムのリソースの二次保護が概要ページに表示されます。

*[完了]*を選択する前に、ウィザードの任意のページに戻って情報を変更できます。

*[完了]*を選択すると、新しいリソース グループがリソース グループ リストに追加されます。



バックアップ内のいずれかのVMで休止処理が失敗すると、選択したポリシーでVM整合性が選択されていても、バックアップはVMと不整合とマークされます。この場合、一部のVMは正常に休止されている可能性があります。

互換性チェックのエラーの管理

リソース グループを作成しようとすると、SnapCenterによって互換性チェックが実行されます。常に参照 "NetApp Interoperability Matrix Tool (IMT)" SnapCenterサポートの最新情報については、こちらをご覧ください。互換性の問題が発生する理由は次のとおりです。

- 共有PCIデバイスがVMに接続されている
- SnapCenterで優先IPアドレスが設定されていない
- Storage VM (SVM) 管理IPアドレスがSnapCenterに追加されていない
- Storage VMが停止している

互換性エラーを修正するには、次の手順を実行します。

- Storage VMが実行されていることを確認します。
- VMが配置されているストレージ システムがSnapCenter Plug-in for VMware vSphereインベントリに追加されていることを確認します。
- Storage VMがSnapCenterに追加されていることを確認します。VMware vSphere ClientのGUIで、[Add storage system]オプションを使用します。
- NetAppのデータストアとNetApp以外のデータストアの両方にVMDKがあるスパニングVMがある場合は、VMDKをNetAppのデータストアに移動します。

プリスク립トとポストスクリプト

カスタムのプリスク립トとポストスクリプトをデータ保護処理の一部として使用することができます。これらのスクリプトによって、データ保護ジョブの前後の処理を自動化できます。たとえば、データ保護ジョブのエラーや警告を自動的に通知するスクリプトを組み込むことができます。プリスク립トとポストスクリプトを設定する前に、スクリプトを作成するための要件を理解しておく必要があります。

サポートされるスクリプト タイプ

Perlスクリプトとシェルスクリプトがサポートされています。シェルスクリプトは `#!/bin/bash` (`#!/bin/sh` はサポートされていません)。

スクリプト パスの場所

プリスク립トとポストスクリプトは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereによって実行されます。そのため、スクリプトは実行ファイル権限を持つSnapCenter Plug-in for VMware vSphere OVAに配置されている必要があります。

例えば: * PERLスクリプトのパスは次のようにになります `/support/support/script.pl`* シェルスクリプトのパスは次のようにになります `/support/support/script.sh`

スクリプト パスは、スクリプトの実行時に検証されます。

スクリプトを指定する場所

スクリプトはバックアップポリシーに指定します。バックアップジョブが開始されると、ポリシーによってスクリプトがバックアップされるリソースに自動的に関連付けられます。

複数のスクリプトを指定するには、各スクリプト パスの後に **Enter** キーを押して、各スクリプトを別々の行にリストします。セミコロン (`;`) は使用できません。プリスク립トとポストスクリプトをそれぞれ複数指定できます。1つのスクリプトをプリスク립トとポストスクリプトの両方として作成し、そのスクリプトから他のスクリプトを呼び出すことができます。

スクリプトが実行されるタイミング

スクリプトは、`BACKUP_PHASE` に設定された値に従って実行されます。

- `BACKUP_PHASE=PRE_BACKUP`

プレスクリプトは、操作の `PRE_BACKUP` フェーズで実行されます。



プリスク립トが失敗しても、バックアップは正常に完了しますが、警告メッセージが送信されます。

- `BACKUP_PHASE=POST_BACKUP` または `BACKUP_PHASE=FAILED_BACKUP`

ポストスクリプトは、バックアップが正常に完了した後の操作の `POST_BACKUP` フェーズで実行されるか、バックアップが正常に完了しなかった場合は `FAILED_BACKUP` フェーズで実行されます。



ポストスクリプトが失敗しても、バックアップは正常に完了しますが、警告メッセージが送信されます。

スクリプトの値が設定されていることを確認するには、次の点を確認してください。
* PERL スクリプトの場合: /support/support/log_env.log
* シェルスクリプトの場合: /support/support/log_file.log

スクリプトに渡される環境変数

スクリプトで使用できる環境変数を次の表に示します。

環境変数	説明
BACKUP_NAME	バックアップの名前。ポストスクリプトでのみ渡される変数です。
BACKUP_DATE	バックアップの日付 (形式: `yyyymmdd` 変数はポストスクリプトでのみ渡されます)。
BACKUP_TIME	バックアップの時刻 (形式: `hhmmss` 変数はポストスクリプトでのみ渡されます)。
BACKUP_PHASE	スクリプトを実行するバックアップのフェーズ。有効な値は次のとおりです。 PRE_BACKUP, POST_BACKUP, and FAILED_BACKUP。プリスク립トとポストスクリプトで渡される変数です。
STORAGE_SNAPSHOTS	バックアップ内のストレージSnapshotの数。ポストスクリプトでのみ渡される変数です。
STORAGE_SNAPSHOT.#	定義されたストレージスナップショットの1つ。形式は次のとおりです。 '<filer>/vol/<volume>:<ONTAP-snapshot-name>' 変数はポストスクリプトでのみ渡されます。
VIRTUAL_MACHINES	バックアップ内のVMの数。プリスク립トとポストスクリプトで渡される変数です。
VIRTUAL_MACHINE.#	定義された仮想マシンの1つ。形式は次のとおりです。 <VM name>[vertical bar]<VM UUID>[vertical bar]<power- state>[vertical bar]<VM snapshot>[vertical bar]<ip-addresses> <power-state> has the values POWERED_ON, POWERED_OFF, or SUSPENDED '<VM snapshot>' 価値観を持っている 'true' または 'false' プレスクリプトとポストスクリプトに渡される 変数。

スクリプトのタイムアウト

バックアップスクリプトのタイムアウトは15分です。この値は変更できません。

Perlスクリプトの例1

次のPerlスクリプトの例では、バックアップの実行時に環境変数が出力されます。

```
#!/usr/bin/perl
use warnings;
use strict;
my $argnum;
my $logfile = '/support/support/log_env.log';
open (FH, '>>', $logfile) or die $!;
foreach (sort keys %ENV) {
print FH "$_ = $ENV{$_}\n";
}
print FH "=====\\n";
close (FH);
```

Perlスクリプトの例2

次の例では、バックアップに関する情報が出力されます。

```
#!/usr/bin/perl
use warnings;
use strict;

my $argnum;
my $logfile = '/support/support/log_env.log';
open (FH, '>>', $logfile) or die $!;

print FH "BACKUP_PHASE is $ENV{'BACKUP_PHASE'}\\n";
print FH "Backup name $ENV{'BACKUP_NAME'}\\n";
print FH "Virtual Machine $ENV{'VIRTUAL_MACHINES'}\\n";
print FH "VIRTUAL_MACHINE # is $ENV{'VIRTUAL_MACHINE.1'}\\n";
print FH "BACKUP_DATE is $ENV{'BACKUP_DATE'}\\n";
print FH "BACKUP_TIME is $ENV{'BACKUP_TIME'}\\n";
print FH "STORAGE_SNAPSHOTS is $ENV{'STORAGE_SNAPSHOTS'}\\n";
print FH "STORAGE_SNAPSHOT # is $ENV{'STORAGE_SNAPSHOT.1'}\\n";

print FH "PWD is $ENV{'PWD'}\\n";
print FH "INVOCATION_ID is $ENV{'INVOCATION_ID'}\\n";

print FH "=====\\n";
close (FH);
```

シェルスクリプトの例

```
=====
#!/bin/bash
echo Stage $BACKUP_NAME >> /support/support/log_file.log
env >> /support/support/log_file.log
=====
```

リソース グループへの単一のVMまたはデータストアの追加

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで管理されている既存のリソース グループに、単一のVMまたはデータストアを簡単に追加することができます。

タスク概要

SANおよびNASデータストアは追加できますが、VSANまたはVVOLデータストアは追加できません。

手順

1. vSphere クライアント GUI で、ツールバーの メニュー を選択し、追加する VM またはデータストアに移動します。
2. 左側のナビゲータ ペインで、VM またはデータストアを右クリックし、セカンダリ ドロップダウン リストから * SnapCenter Plug-in for VMware vSphere* > * リソース グループに追加 * を選択します。

システムはまず、選択した VM が配置されているストレージ システムをSnapCenterが管理し、互換性があることを確認し、次に [リソース グループに追加] ページを表示します。メッセージが `SnapCenter Compatibility Error` が表示される場合、選択した VM はSnapCenterと互換性がないため、まず適切なストレージ VM をSnapCenterに追加する必要があります。

3. リソース グループに追加 ページで、リソース グループを選択し、OK を選択します。

[OK] を選択すると、システムはまず、選択した VM またはデータストアが配置されているストレージをSnapCenterが管理し、互換性があるかどうかを確認します。

メッセージが `Selected <resource-name> is not SnapCenter compatible` が表示される場合、選択した VM またはデータストアはSnapCenterと互換性がありません。参照["互換性チェックのエラーの管理"](#)詳細についてはこちらをご覧ください。

リソース グループへの複数のVMとデータストアの追加

SnapCenter VMware vSphere Clientの[Edit Resource Group]ウィザードを使用して、既存のリソース グループに複数のリソースを追加できます。

リソース グループには、次のいずれかを含めることができます。

- ・従来のVM、SANデータストア、NASデータストアの任意の組み合わせ (vVolデータストアはサポートされていません)
- ・1つのFlexGroupデータストア (スパニングVMはサポートされていません)
- ・1つ以上のFlexVolデータストア (スパニングVMがサポートされています)
- ・1台以上のvVol VM
- ・指定したvSphereタグが設定されたすべてのvVol VM
- ・指定したフォルダ内のすべてのvVol VM



SnapCenterでバックアップされるのは、選択したプライマリvVolデータストア内のvVolのみであるため、複数のvVolデータストアにまたがるvVol VMはサポートされていません。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲータペインで*リソースグループ*を選択し、リソースグループを選択して、 リソース グループの編集 をクリックしてウィザードを開始します。
2. リソース ページで、次の操作を行います。
 - a. [Datastores]フィールドで、追加するVMまたはデータストアに移動します。
 - b. [使用可能なエンティティ]リストで、リソース グループに追加する 1 つ以上の VM またはデータストアを選択し、[>]を選択して、選択内容を [選択したエンティティ]リストに移動します。利用可能なすべてのエンティティを移動するには、[]を選択します。

デフォルトでは、[Available entities]リストにはデータセンター オブジェクトが表示されます。データストアを選択して、データストア内の VM を表示し、リソース グループに追加できます。

[次へ]を選択すると、システムはまず、選択した VM またはデータストアが配置されているストレージをSnapCenterが管理し、互換性があるかどうかを確認します。メッセージが`Some entities are not SnapCenter compatible`が表示される場合、選択した VM またはデータストアはSnapCenterと互換性がありません。参照["互換性チェックのエラーの管理"](#)詳細についてはこちらをご覧ください。

3. 追加するVMまたはデータストアごとに手順2を繰り返します。
4. 概要 ページに到達するまで [次へ]を選択し、概要を確認して [完了]を選択します。

名前が変更されたストレージのバックアップのリストア

ストレージの名前を変更すると、名前の変更前に作成されたバックアップを使用するワークフローが失敗します。REST APIからのみアクセスできるバックアップ名変更機能が導入され、ストレージ名の変更前に作成されたバックアップを使用できるようになりました。REST APIのワークフローと使用方法を以下に示します。



ASA r2 ストレージ システムは、_recent スナップショット命名機能をサポートしていません。

手順

1. 新しいストレージ接続を追加または更新し、新しいクラスタ名またはSVM名がSCVに反映されるようにします。
2. KB 記事の説明に従って、サービスを再起動してキャッシュを更新します。 "[「SCV backups fail after SVM rename」](#)"
3. 新しいバックアップを作成します。
4. バックアップの詳細を使用して、古いストレージ名と新しいストレージ名を見つけます。
5. vSphere クライアントの バックアップ 画面で、バックアップを選択して詳細を表示します。
6. 次の URL から Swagger にアクセスします。 <https://<SCV-IP>:8144/api/swagger-ui/index.html>

次のAPIを使用してストレージの名前を変更します。

パッチ /4.1/ストレージシステム

例: { "existingSVM": { "name": "string" }, "newSVM": { "name": "string" } }

応答：

```
{ "statusMessage": "OK", "statusCode": 200, "responseMessage": [ "ストレージシステムの名前が正常に変更されました。"] }
```

このAPIを実行すると、古いバックアップからのリストア処理を含む、すべてのワークフローを実行できるようになります。

オンデマンドでのリソース グループのバックアップ

バックアップ処理は、リソース グループに定義されているすべてのリソースに対して実行されます。リソース グループにポリシーが適用され、かつスケジュールが設定されている場合は、スケジュールに従って自動的にバックアップが行われます。

- ASA r2 バックアップは、整合性グループのスナップショットを作成し、指定されたリソースにプライマリ整合性グループがまだ存在しない場合はプライマリ整合性グループをプロビジョニングします。

開始する前に

ポリシーを適用したリソース グループを作成しておく必要があります。

- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのMySQLデータベースのバックアップ ジョブがすでに実行中の場合は、オンデマンド バックアップ ジョブを開始しないでください。メンテナンス コンソールを使用して、MySQLデータベースのバックアップ スケジュールを確認します。

タスク概要

以前のリリースのVirtual Storage Console (VSC) では、VMまたはデータストアのバックアップ ジョブが設定されていなくても、オンデマンド バックアップを実行できました。一方、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの場合、バックアップを実行するには、VMとデータストアがリソース グループに含まれている必要があります。

手順

1. SCVプラグインの左側のナビゲータペインで*リソースグループ*を選択し、リソースグループを選択して、 *今すぐ実行*してバックアップを開始します。
2. リソース グループに複数のポリシーが設定されている場合は、[今すぐバックアップ] ダイアログ ボックスで、このバックアップ操作に使用するポリシーを選択します。
3. バックアップを開始するには、[OK] を選択します。
4. オプション: ウィンドウの下部にある 最近のタスク を選択するか、ダッシュボードの ジョブ モニター を選択して、操作の進行状況を監視し、詳細を確認します。。結果

バックアップ内のいずれかのVMで休止処理が失敗すると、バックアップは警告付きで完了し、選択したポリシーでVM整合性が選択されていても、VMの不整合とマークされます。この場合、一部のVMは正常に休止されている可能性があります。ジョブ モニタには、障害が発生したVMの詳細に休止が失敗と表示されます。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのMySQLデータベースのバックアップ

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereには、プラグインで実行されるすべてのジョブのメタデータを格納するMySQLデータベース（NSMデータベースとも呼ばれます）が含まれています。このリポジトリを定期的にバックアップする必要があります。

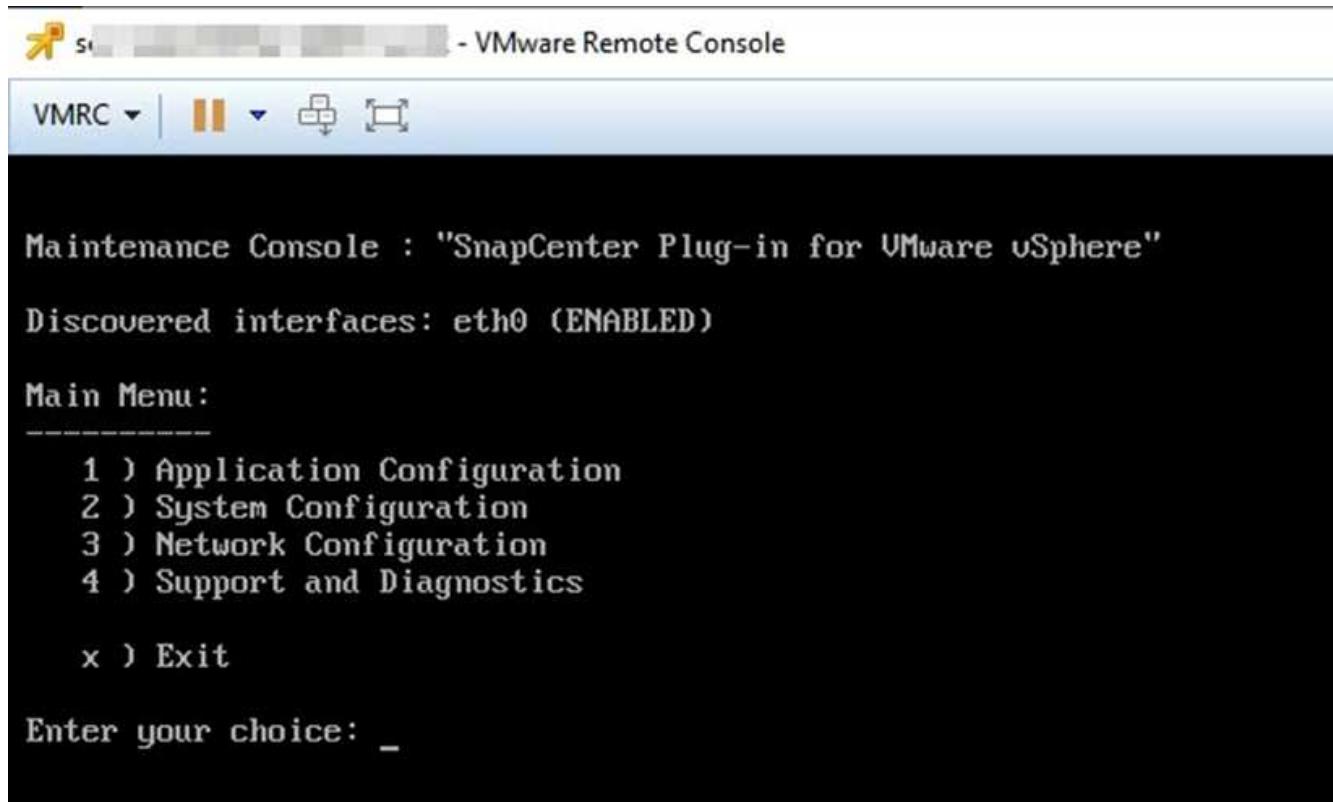
移行またはアップグレードを実行する前にも、リポジトリをバックアップします。

開始する前に

オンデマンド バックアップ ジョブがすでに実行中の場合は、MySQLデータベースのバックアップ ジョブを開始しないでください。

手順

1. VMware vSphere Clientで、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが配置されているVMを選択します。
2. 仮想アプライアンスの 概要 タブで、リモート コンソールの起動 または **Web** コンソールの起動 を選択して、メンテナンス コンソール ウィンドウを開きます。



3. メインメニューからオプション*1) アプリケーション構成*を入力します。
4. アプリケーション構成メニューから、オプション*6) MySQLのバックアップと復元*を入力します。
5. MySQL バックアップおよび復元構成メニューから、オプション 1) MySQL バックアップの構成 を入力します。
6. プロンプトで、リポジトリのバックアップの場所、保持するバックアップの数、およびバックアップの開始時刻を入力します。

これらを入力すると、すべての入力内容が保存されます。バックアップの保持数に達すると、新しいバックアップの実行時に古いバックアップが削除されます。



リポジトリのバックアップの名前は「backup-<date>」になります。リポジトリのリストア機能で「backup」プレフィックスが検索されるため、これを変更しないでください。

リソース グループの管理

バックアップ リソース グループを作成、変更、削除し、リソース グループに対してバックアップ処理を実行することができます。



Virtual Storage Console (VSC) では、リソース グループはバックアップ ジョブと呼ばれます。

リソース グループに対する処理の一時停止と再開

スケジュールされた処理を一時的に無効にして、リソース グループで開始されないように設定できます。無効にした処理は、必要に応じてあとから有効にすることができます。

手順

1. SCV プラグインの左側のナビゲータ ペインで、リソース グループを選択し、リソース グループを選択して、一時停止（または再開）を選択します。
2. 確認ボックスで「OK」を選択して確定します。

終了後の操作

リソースグループページでは、中断されたリソースのジョブステータスは Under_Maintenance。[Job Status]列が表示されない場合は、表を右にスクロールしてください。

バックアップ操作が再開されると、ジョブステータスは次のように変わります。Production。

リソース グループの変更

vCenterでのリソース グループ内のリソースの削除または追加、ポリシーの適用解除または適用、スケジュールの変更、その他のリソース グループ オプションの変更を行うことができます。

タスク概要

リソース グループの名前を変更する場合は、VM、データストア、ポリシー、バックアップ、またはリソース グループの名前に次の特殊文字を使用しないでください。

% & * \$ # @ ! \ / : * ? " < > - | ; '、およびスペース。アンダースコア（_）は使用できます。

手順

1. SCV プラグインの左側のナビゲータ ペインで、リソース グループを選択し、リソース グループを選択して、編集を選択します。
2. リソース グループの編集 ウィザードの左側のリストで、変更するカテゴリを選択し、変更を入力します。

複数のカテゴリに変更を加えることができます。このオプションでは、二次的に保護されたリソースを編集することもできます。

- 概要ページが表示されるまで [次へ] を選択し、[完了] を選択します。

リソース グループの削除

リソース グループ内のリソースを保護する必要がなくなった場合は、vCenterでリソース グループを削除できます。vCenterからSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを削除する前に、すべてのリソース グループが削除されていることを確認する必要があります。

タスク概要

リソース グループの削除処理は、すべて強制削除として実行されます。削除操作では、vCenter リソース グループからすべてのポリシーがデタッチされ、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereからリソース グループが削除され、リソース グループのすべてのバックアップとスナップショットが削除されます。



SnapVault関係では、最後のスナップショットを削除できないため、リソース グループを削除できません。SnapVault関係の一部であるリソース グループを削除する前に、System Manager またはONTAP CLI を使用してSnapVault関係を削除し、最後のスナップショットを削除する必要があります。

手順

- SCV プラグインの左側のナビゲータ ペインで、リソース グループを選択し、リソース グループを選択して、削除 を選択します。
- リソース グループの削除 確認ボックスで、OK を選択して確認します。

ポリシーの管理

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのバックアップ ポリシーを作成、変更、表示、適用解除、および削除できます。データ保護処理を実行するにはポリシーが必要です。

ポリシーの適用解除

リソースのデータ保護を管理するポリシーが不要になった場合は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere のリソース グループからポリシーの適用を解除できます。ポリシーを削除する場合や実行頻度を変更する場合は、事前にポリシーの適用を解除する必要があります。

タスク概要

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのリソース グループからポリシーの適用を解除する際のガイドラインは、SnapCenterのリソース グループのガイドラインとは異なります。VMware vSphere Clientリソース グループの場合、すべてのポリシーの適用を解除できるため、リソース グループにポリシーが適用されていない状態になります。ただし、そのリソース グループに対してデータ保護処理を実行するには、少なくとも1つのポリシーを適用する必要があります。

手順

- SCV プラグインの左側のナビゲータ ペインで、リソース グループを選択し、リソース グループを選択して、編集 を選択します。
- リソース グループの編集 ウィザードの ポリシー ページで、デタッチするポリシーの横にあるチェック

マークをオフにします。

ポリシーのチェック マークをオンにすると、ポリシーがリソース グループに追加されます。

3. ウィザードの残りの部分でリソース グループに追加の変更を加え、[完了] を選択します。

ポリシーの変更

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのリソース グループのポリシーを変更できます。ポリシーがリソース グループにアタッチされている間に、頻度、レプリケーションオプション、スナップショットの保持設定、またはスクリプト情報を変更できます。

タスク概要

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのバックアップ ポリシーの変更は、SnapCenterアプリケーションベースのプラグインのバックアップ ポリシーの変更とは異なります。プラグインのポリシーを変更する際に、リソース グループからポリシーの適用を解除する必要はありません。

レプリケーションまたは保持の設定を変更する前に、その影響を考慮する必要があります。

- レプリケーションまたは保持の設定を引き上げる場合

新しい設定に達するまでバックアップが蓄積され続けます。

- レプリケーションまたは保持の設定を引き下げる場合

新しい設定を超過したバックアップは、次のバックアップの実行時に削除されます。



SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのポリシー スケジュールを変更するには、プラグインのリソース グループでスケジュールを変更する必要があります。

手順

1. SCV プラグインの左側のナビゲータ ペインで、ポリシーを選択し、ポリシーを選択して 編集 を選択します。
2. ポリシーのフィールドを変更します。
3. 完了したら、[更新] を選択します。

変更は、スケジュールされたバックアップが次回実行されるときに有効になります。

ポリシーの削除

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの設定済みのバックアップ ポリシーが不要になった場合は、そのポリシーを削除できます。

開始する前に

ポリシーを削除するには、SnapCenterの仮想アプライアンス内のすべてのリソース グループからポリシーの適用を解除しておく必要があります。

手順

1. SCV プラグインの左側のナビゲータ ペインで、ポリシーを選択し、ポリシーを選択して 削除 を選択し

ます。

- 確認ダイアログボックスで*OK*を選択します。

バックアップの管理

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereで実行されたバックアップの名前変更および削除を行うことができます。複数のバックアップを同時に削除することもできます。

バックアップの名前の変更

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのバックアップの検索性を高めるために、バックアップの名前を変更できます。



ASA r2 ストレージ システムは、バックアップの名前変更をサポートしていません。

手順

- メニューを選択し、ホストとクラスター メニュー オプションを選択して、VMを選択し、構成 タブを選択して、* SnapCenter Plug-in for VMware vSphere* セクションでバックアップを選択します。

- [構成] タブでバックアップを選択し、[名前の変更] を選択します。
- バックアップの名前変更 ダイアログボックスで新しい名前を入力し、OK を選択します。

VM、データストア、ポリシー、バックアップ、またはリソース グループの名前には、次の特殊文字を使用しないでください: & * \$ # @ ! \ / : * ? " < > - | ; '、およびスペース。アンダースコア (_) は使用できます。

バックアップの削除

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのバックアップが他のデータ保護処理で不要になった場合、そのバックアップを削除できます。1つのバックアップを削除することも、複数のバックアップを同時に削除することもできます。

開始する前に

マウントされているバックアップは削除できません。バックアップを削除するには、事前にアンマウントする必要があります。

タスク概要

セカンダリ ストレージ上のスナップショットは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereではなく、

ONTAP保持設定によって管理されます。したがって、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを使用してバックアップを削除すると、プライマリストレージ上のスナップショットは削除されますが、セカンダリストレージ上のスナップショットは削除されません。セカンダリストレージにスナップショットがまだ存在する場合、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、復元要求をサポートするためにバックアップに関連付けられたメタデータを保持します。ONTAP保持プロセスによってセカンダリスナップショットが削除されると、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、定期的に実行されるページジョブを使用してメタデータを削除します。

- メニューを選択し、ホストとクラスター メニュー オプションを選択して、VMを選択し、構成 タブを選択して、* SnapCenter Plug-in for VMware vSphere* セクションでバックアップを選択します。

Name	Status	Locations	Snapshot Lock Expiration	Created Time	Mounted	Policy	VMware Snapshot
TPS_vvol_10-05-2023_14...	Completed	Primary & Secondary	10/6/2023 11:33:57 PM	10/5/2023 11:33:58 PM	No	TPS_vvol1	No
withoutexpiry_10-05-2023...	Completed	Primary & Secondary	-	10/5/2023 11:27:44 PM	No	ondemandvault	No
withoutexpiry_10-05-2023...	Completed	Primary & Secondary	-	10/5/2023 11:25:18 PM	No	ondemandvault	No
TPS_vvol_10-05-2023_13...	Completed	Primary & Secondary	10/6/2023 11:09:26 PM	10/5/2023 11:09:28 PM	No	TPS_vvol1	No
TPS_vvol_10-05-2023_1310...	Completed	Primary	10/6/2023 10:40:25 PM	10/5/2023 10:40:26 PM	No	TPS_vvol1	No
withexpiry_10-04-2023_12...	Completed	Primary	10/6/2023 10:19:48 PM	10/4/2023 10:19:50 PM	No	TPS_vvol1	No
withexpiry_10-03-2023_12...	Completed	Primary	10/4/2023 10:09:05 PM	10/3/2023 10:09:07 PM	No	TPS_vvol1	No
withoutexpiry_09-26-2023...	Completed	Primary	-	9/27/2023 8:17:15 AM	No	ondemandvault	No
withoutexpiry_09-25-2023...	Completed	Primary	-	9/29/2023 10:39:54 PM	No	ondemandvault	No

- 1つまたは複数のバックアップを選択し、[削除]を選択します。

削除するバックアップは最大40個まで選択できます。

- 削除操作を確認するには、[OK]を選択します。
- 左側のvSphereメニューバーにある更新アイコンを選択して、バックアップリストを更新します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。